

令和3年度 財政状況等市民説明会用資料

杵 築 市

普通会計は、一般会計とケーブルテレビ事業特別会計を合わせた決算額です。

1. 歳入総額

歳入総額は272億9,606万円と大幅に増額しております。

新型コロナウイルス感染症対策に伴う国からの交付金や補助金が増額となったことなどが主な要因です。

また、ふるさと杵築応援寄附金が大幅な増額となったことも増加要因となっています。

2. 歳出総額

歳出総額は267億4,022万円と歳入総額同様に大幅に増額しております。

新型コロナウイルス感染症対策にかかる経費の増額に加え、公債費（投資的経費などの実施に際し借り入れた借金の毎年度返済分）の将来縮減に向けた繰上償還（約25億6,035万円）を実施したことなどが主な要因となっています。

財政健全化条例を遵守し、普通建設事業の縮減や職員の採用抑制による人件費の縮減など、歳出の抑制に努めています。

3. 繰上償還

市債残高を縮減し、将来にわたる公債費を削減するため、財政調整基金（7億6,941万円）や減債基金（15億1,900万円）を活用し繰上償還を行いました。

4. 実質単年度収支

単年度収支から、実質的な黒字要素（財政調整基金積立額及び市債繰上償還額）を加え、赤字要素（財政調整基金取崩額）を差し引いた額であり、当該年度のみの実質的な収支を把握するための指標ですが、人件費の縮減や繰上償還などを行った結果、19億8,815万円の黒字となりました。

5. 経常収支比率

職員数の削減や事業の内容・手法等の見直しに取り組んだことから、令和元年度比6.5ポイント減の94.4%と改善しています。

6. 積立金現在高（基金残高）

繰上償還や事業等の財源として取崩しを行ったことから、19億7,723万円減の62億2,828万円となりました。

（※さらなる収支改善に努め、積立金の増額に取り組みます。）

7. 地方債現在高（市債残高）

繰上償還を実施したことから、約20億1,211万円を縮減し、227億1,384万円になりました。

1.収支の状況

(単位：千円)

区 分		H28	H29	H30	R1	R2
1	歳 入 総 額	20,232,484	20,913,792	19,854,360	23,455,516	27,296,056
2	歳 出 総 額	19,490,951	20,308,460	19,101,659	22,834,797	26,740,223
3	形式収支(1)-(2)	741,533	605,332	752,701	620,719	555,833
4	翌年度繰越財源	54,177	107,223	344,983	135,042	110,136
5	実質収支(3)-(4)	687,356	498,109	407,718	485,677	445,697
6	単年度収支	▲ 126,221	▲ 189,247	▲ 90,391	77,959	▲ 39,980
7	積立基金 (財政調整基金)	423,609	366,473	277,356	221,228	237,195
8	繰上償還金	0	0	0	0	2,560,349
9	積立金取崩額 (財政調整基金)	360,007	693,352	936,044	759,771	769,413
10	実質単年度収支 (6)+(7)+(8)-(9)	▲ 62,619	▲ 516,126	▲ 749,079	▲ 460,584	1,988,151

2.各種財政指標等の状況

(単位：千円)

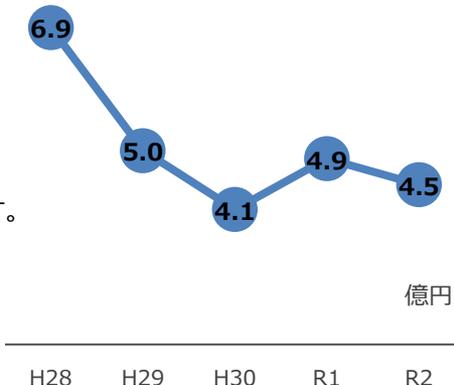
区 分		H28	H29	H30	R1	R2
1	財 政 力 指 数	0.34	0.34	0.34	0.34	0.35
2	実 質 収 支 比 率	6.4%	4.7%	3.9%	4.7%	4.2%
3	経 常 収 支 比 率	96.4%	98.5%	100.9%	100.9%	94.4%
4	実 質 赤 字 比 率	-	-	-	-	-
5	連 結 実 質 赤 字 比 率	-	-	-	-	-
6	実 質 公 債 費 比 率	9.3%	9.7%	10.6%	10.8%	10.4%
7	将 来 負 担 比 率	39.0%	42.6%	46.6%	62.6%	28.4%
8	積 立 金 現 在 高 (土地開発基金除く)	10,225,945	9,951,417	9,006,427	8,205,511	6,228,284
9	地 方 債 現 在 高	23,171,869	23,900,215	23,358,662	24,725,946	22,713,839

01 実質収支

4.5 億円

歳入（収入）から歳出（支出）及び翌年度への繰越財源を引いた額になります。

- ✓ R2年度は歳入の方が4.5億円多く、杵築市は**黒字団体**です。

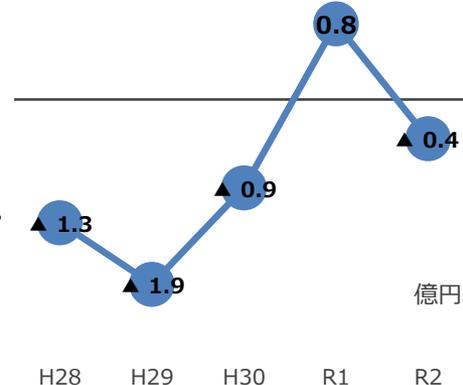


02 単年度収支

▲0.4 億円

当該年度の実質収支から前年度の実質収支を引いた額になります。

- ✓ R2年度はR1年度に比べ0.4億円翌年度への繰越金が減りました。



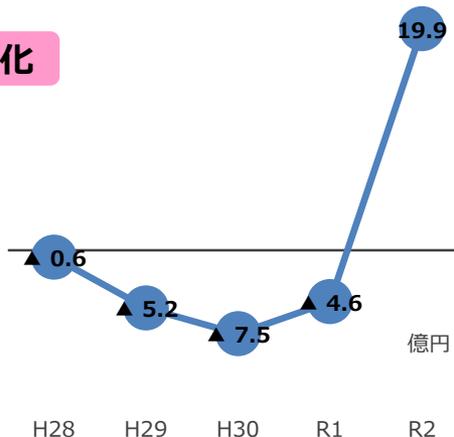
03 実質単年度収支

19.9 億円

黒字化

単年度収支に、財政調整基金の増減及び市債の繰上償還の影響を加味した額になります。

- ✓ R2年度は**黒字に転換**しました。



04 実質単年度収支の内訳

(19.9億円 = -0.4 - 5.3 + 25.6)

普通会計

- ✓ 繰越金は、**0.4** 億円減りました。

一般会計とケーブルテレビ事業特別会計を合わせたものです。

財政調整基金

- ✓ 貯金も、**5.3** 億円減りました。
→繰上償還の財源としたためです。

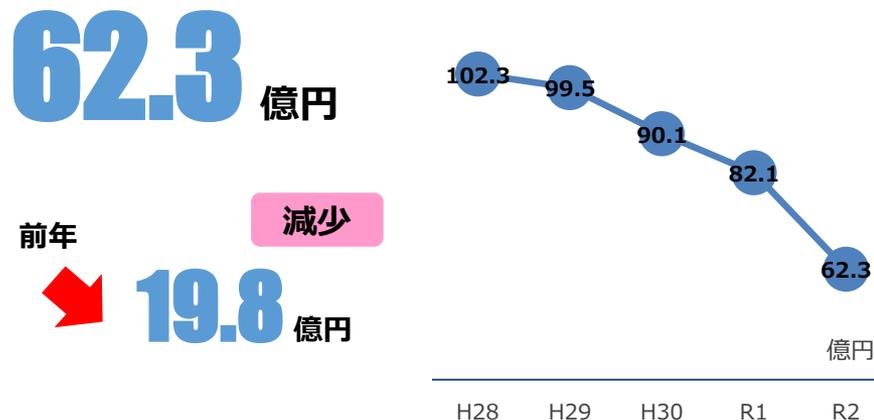
年度間の財源の不均衡を調整するための基金（貯金）です。

市債残高

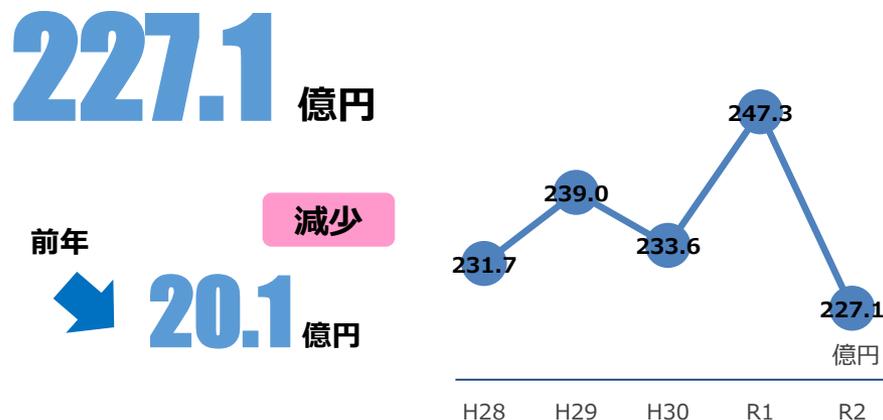
- ✓ 繰上償還を **25.6** 億円実施し、借金を予定以上に減らしました。
→後年度の公債費（償還額）軽減につながります。

道路や建物等の大型事業を実施する際に生じた借金です。

01 資産：基金（貯金）残高



02 負債：市債（借金）残高



基金（62.3億円の内訳）

財政調整基金

✓ 残高は **21.1** 億円（前年▲**5.3** 億円）

→ 繰上償還の財源としたため減少しています。

年度間の財源の不均衡を調整するための基金（貯金）です。

減債基金

✓ 残高は **0.0** 億円（前年▲**15.2** 億円）

→ 繰上償還の財源としたため大きく減少しています。

市債の償還等を行うための基金（貯金）です。

特定目的基金

✓ 残高は **41.2** 億円（前年+**0.7** 億円）

→ ふるさと杵築応援基金の増等により増加しています。

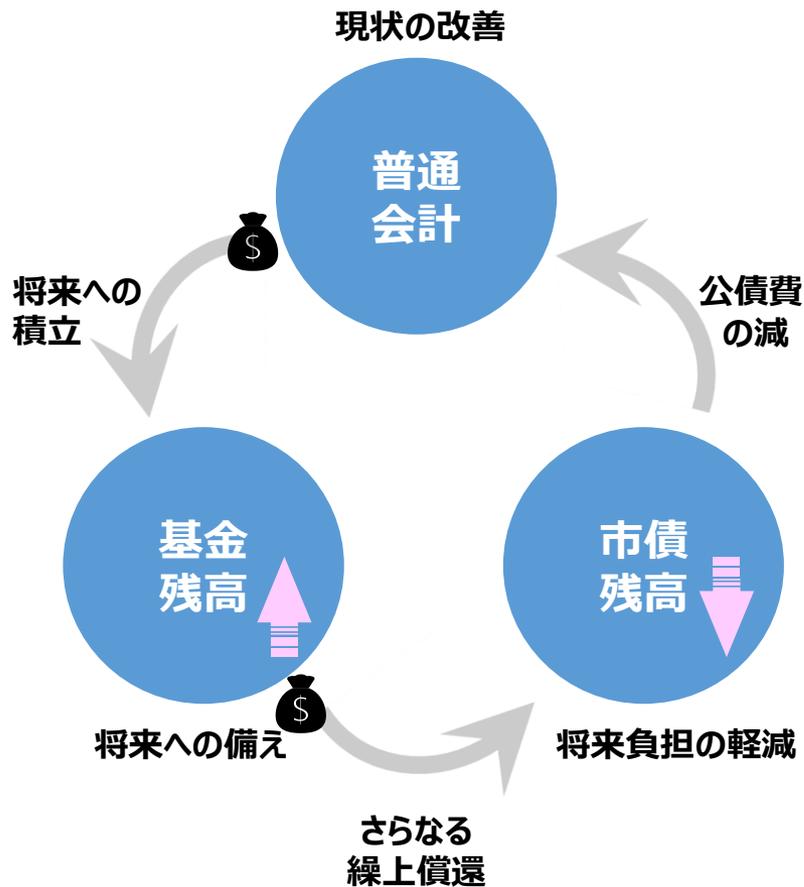
特定の目的のための基金（貯金）です。

✓ R2年度に大規模な繰上償還を行ったものの、財政規模からみて、依然として高い水準にあります。

市債残高（目的別）

（単位：億円）

目的別	R2残高	活用内容
総務費	21.9	ケーブルテレビなど
民生費・衛生費	9.9	健康福祉公園整備など
農林水産費	11.7	農業施設、ため池など
土木費	25.1	道路、橋梁、港湾など
消防費	10.8	消防施設整備など
教育費	81.4	幼稚園・小・中学校整備など
災害復旧費	5.6	災害復旧
臨時財政対策債	60.7	地方交付税の不足額を補てんするもの



01 未来戦略推進プランによる
基金、市債に依存しない財政運営の確立

02 将来の財政需要を見据えた計画的な積立

03 さらなる繰上償還による 後年度負担の軽減
事業費平準化による 新規発行する市債の抑制

まとめ

✓ R2年度の普通会計決算は、R1年度に比べ改善しました。

✓ しかしながら、
今後増大する財政需要（施設の更新・修繕費用）に、
対応するため、基金の確保、市債残高の圧縮は、
杵築市の最重要課題です。

基本理念「未来（あす）を見据えた持続可能な行財政運営の実現」

計画期間：令和2年度から令和6年度の5年間

- 1.最適な人員配置と業務効率化
- 2.市債（借金）の早期縮減
- 3.事務事業の適正化
- 4.ふるさと納税のさらなる推進
- 5.市税徴収率の向上

1.最適な人員配置と業務効率化

①職員数の適正化

取組

- ・定年退職者の新採用不補充
- ・「定員適正化計画」の改定



成果

- ・職員数325人
(対R1 ▲15人)

②業務効率化

取組

- ・工数管理による勤務状況把握
- ・Web会議システムの導入
- ・ペーパーレス会議の推進



成果

- ・時間外勤務の縮減
- ・移動時間の軽減による効率化
- ・新たな課の創設
(財産管理活用課)

③職員意識改革

取組

- ・工数管理の導入
- ・課題管理によるマネジメント力の向上対策



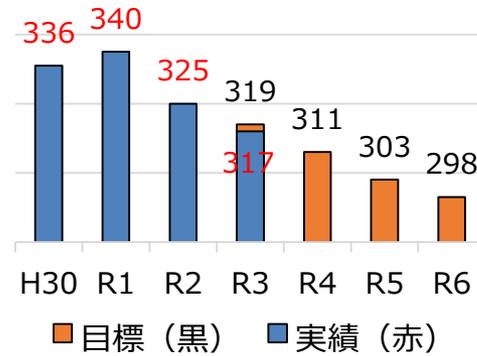
成果

- ・業務時間の可視化による意識向上
- ・リスク管理体制の強化による業務改善への意識改革

今後

- ・職員数の減少による「市民サービスの低下」を招くことなく、「考える職員」の育成、意識改革に努め、行政サービスに取り組んでいきます。
- ・効率的で質の高い行政を実現するため、行政需要の変化や地域的特性など、地域の実情に応じた、きめ細やかな対応を行います。

職員数の推移 (人)



<参考>

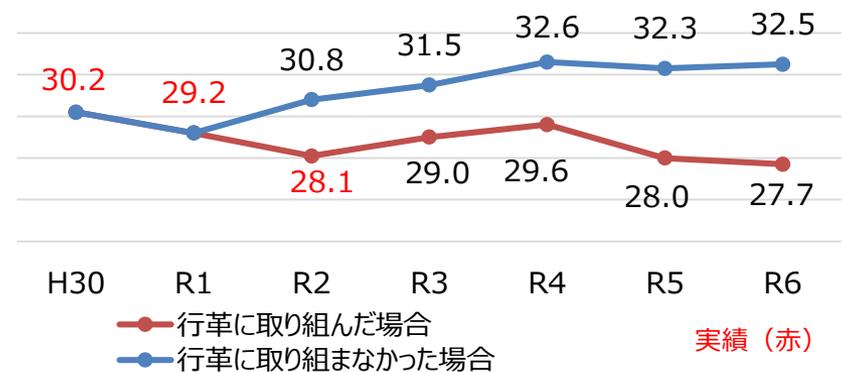
給料等のR3年度カット状況

- ・議員の報酬(▲10%)
- ・市長の給料等(▲30%)
- ・副市長・教育長の給料等(▲20%)
- ・職員の給料カット (▲5%)
- ・ラスパイレース指数96.2
(大分県内14市平均100.2)

※ラスパイレース指数とは国家公務員と比較した給与水準

大分県内14市中
一番低い状況です。

総人件費の推移 (億円)



R2年度
効果額 **2.7億円**

2.市債（借金）の早期縮減

目標①

市債発行限度額 **37.5億円以内**（計画期間・通算）

※ 臨時財政対策債、災害復旧事業債及び減収補填債除く
（= 財政規律ガイドライン）

取組

- ・普通建設事業の通年抑制
- ・新規発行額の抑制（市債発行計画）

目標②

市債残高 **200億円以下**（目標期限：R6年度末）

取組

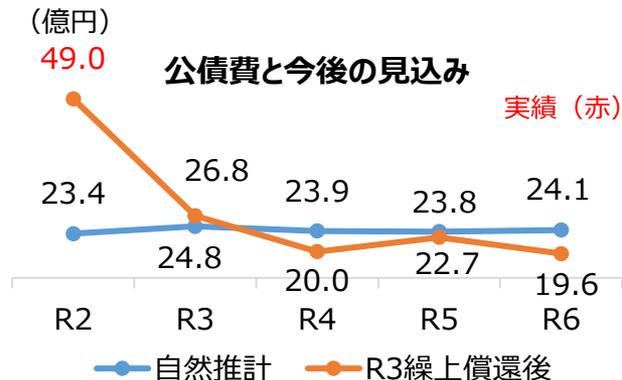
- 左記に加え、
- ・既に発行された債権の早期繰上償還
R2年度：25.6億円（R3年度：5.2億円を予定）

成果

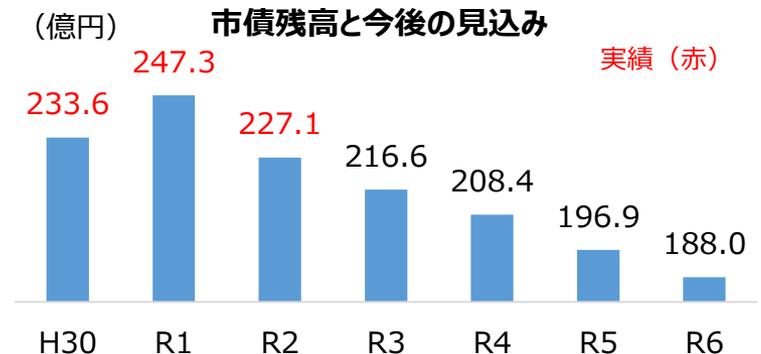
- ・市債残高の縮減
R2年度末：227.1億円
▲20.2億円（対 R1年度末）

効果額

繰上償還の実施により公債費
R3年度 ▲3.2億円



※ 繰上償還をR3（5.2億円）とR5（3億円）に実施する予定から公債費が増加しています。



※ 繰上償還の実施と市債発行額を抑制することで市債残高を早期削減します。

3. 事務事業の適正化

① 事務事業の見直し

取組

- ・事務事業の新たな評価手法の導入「**選択と集中**」(公益性の確保、事業成果の客観的評価等)
- ・イベントの見直し
- ・公用車両の適正管理



成果

- ・適正な評価を次年度事業に反映
- R3予算 休廃止8件、見直し・縮小11件

② 補助金の見直し

取組

- ・3割負担、目的達成を終期としたサンセット方式の導入徹底
- ・補助金の新たな評価手法の導入(公益性や公平性の確保等)



成果

- ・適正な評価を次年度補助金に反映
- R3予算 見直し・縮小8件

③ 事務事業アウトソーシングの推進

取組

- ・事業仕分けや工数分析を基にした、アウトソーシング対象事業の検証



成果

- ・正職員が実施すべきコア業務と、非正規職員や外部委託等が適する他業務との仕分けを実施
- ・次年度以降のアウトソーシング実施に向けた契機

新規事業の精査

≪R3年度からの取組≫

取組

- ・予算査定前の“事前評価”の実施(総予算が増加しないよう、各課予算を事前調整 = **スクラップアンドビルド**)

4. ふるさと納税のさらなる推進

・令和2年度寄附額目標 5億円

取組

- ・事業所との協力による返礼品の拡充
- ・PR活動の強化
- ・楽器を寄附する新たなスタイル



成果

- ・寄附額 6億8,646万円
- ・地域経済への波及効果
- ・PRによる応援者の確保

今後

- ・事業所や地域商社と協力・連携による返礼品の開発、増産に取り組みます。
- ・プロモーション強化による応援者の確保を図ります。
- ・寄附を活用した地域振興事業に取り組みます。

○ふるさと納税寄附額の推移

(単位：千円)

区分	H30	R1	R2
寄附額	164,521	411,690	686,455

○ふるさと納税寄附額の活用

- ・健やか子育て支援事業(医療費無償化)
- ・情報活用実践力向上事業(小中学校ICT教育)
- ・市立図書館図書購入費
- ・守江湾干潟再生事業 など

R2年度

効果額 **0.9億円**

(686,455千円 - 500,000千円 / 2)

5.市税徴収率の向上

・令和2年度目標

①全体徴収率 94.01%

②現年徴収率 98.49%

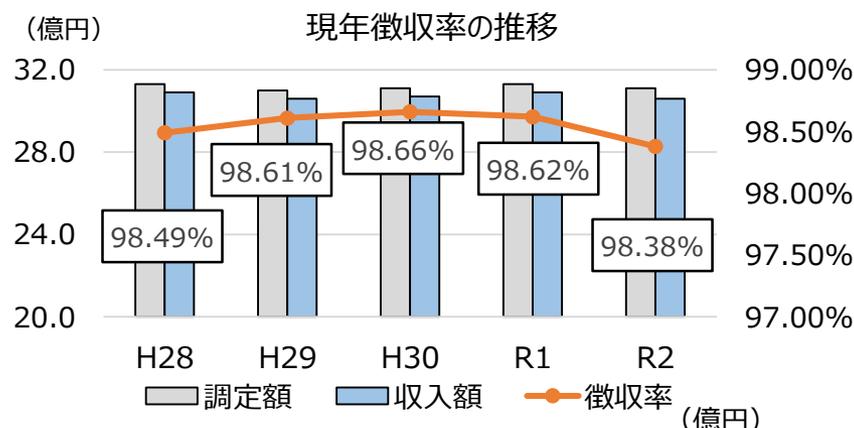
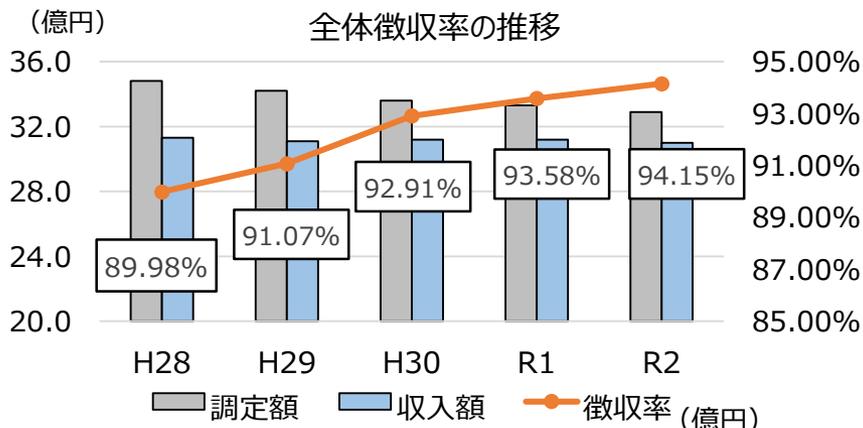
取組

- ・非接触型決済方式（スマートフォンアプリ）を利用した納付機会の拡充
- ・実態調査（財産調査）、訪問催告による積極的な徴収強化
- ・細やかな窓口相談対応
- ・研修参加によるスキルアップ及び他自治体との情報連携



成果

- ・全体徴収率は、R1年度比0.57%増の**94.15%**
- ・収入額効果は、**約1,877万円**
（R2年度調定額にR1年度徴収率とR2年度徴収率を乗じた差）
- ・R2年度現年徴収率（98.38%）は、新型コロナウイルスによる徴収猶予の特例を除くと99.14%



今後

- ・市税収入の確保は、健全な財政基盤を確立していく上での重要課題であり、その確実な徴収に努めます。
- ・新型コロナウイルスによる状況を考慮しながらも、納付機会の拡充や実態調査の強化を図り徴収率を向上させます。

令和2年度県内平均市税徴収率
97.2% (▲0.6%)

大分県内18市町村中
17番目です。

R2年度
効果額 **0.2億円**

説明した内容等に取り組んだ結果、令和2年度の3つの目標の成果は下記のとおりです。

財調基金
20億円
以上

毎年、標準財政規模^(注)の20%に相当する額20億円以上を確保します。

健全化条例

財政調整基金は、財源不足や災害発生などの予期せぬ支出に備えて積み立て、年度によって生じる財源の不均衡を調整するための基金です。

(注) 標準的な状態で通常収入されるであろう経常的一般財源の規模を示すものです。

◎ 令和2年度 **21.1億円**を確保

経常収支
比率
96%台

令和6年度にかけて96%台に改善させることを目標とします。

財政構造の弾力性を示す指標

◎ 令和2年度 **94.4%**と改善

市債残高
200億円
以下

令和6年度末までに200億円以下に縮減します。

◎ 令和2年度 **227.1億円**に縮減 (▲20.2億円)

未来戦略推進プランを達成した場合の中期財政収支は下記のとおりです。

（普通会計：一般会計及びケーブルテレビ事業特別会計）

（単位：千円、%）

区 分	R2決算	R3	R4	R5	R6
歳入合計(A)	27,296,056	20,590,621	18,050,647	18,214,708	17,951,169
地方税	3,101,467	3,030,110	3,009,055	3,005,586	2,937,072
地方交付税	6,788,259	7,019,269	6,992,527	6,991,009	7,132,874
普通交付税	6,153,464	6,384,269	6,357,527	6,356,009	6,497,874
特別交付税	634,795	635,000	635,000	635,000	635,000
国庫支出金	6,645,456	3,345,552	2,381,739	2,314,908	2,324,988
県支出金	1,695,876	1,915,024	1,595,510	1,554,324	1,530,355
地方債	2,800,798	1,559,394	1,109,597	1,070,361	1,010,500
その他	6,264,200	3,721,272	2,962,219	3,278,520	3,015,380
歳出合計(B)	26,740,223	20,488,721	17,839,266	18,075,254	17,724,124
義務的経費	11,324,728	9,304,061	8,578,255	8,612,442	8,264,970
人件費	2,807,793	2,899,284	2,958,634	2,800,199	2,766,203
扶助費	3,613,312	3,721,799	3,615,222	3,538,766	3,543,613
公債費	4,903,623	2,682,978	2,004,399	2,273,477	1,955,154
投資的経費	4,003,821	2,425,884	1,414,249	1,363,585	1,309,248
その他の経費	11,411,674	8,758,776	7,846,762	8,099,227	8,149,906
差引額((A)-(B))	555,833	101,900	211,381	139,454	227,045
基金残高 (土地開発基金除く)	6,228,284	6,791,119	7,239,960	7,389,713	8,010,190
財政調整基金	2,106,228	2,413,128	2,624,509	2,763,963	2,991,008
減債基金	2,895	305,194	305,714	6,213	6,223
その他特定目的基金	4,119,161	4,072,797	4,309,737	4,619,537	5,012,959
市債残高	22,713,839	21,664,866	20,836,499	19,692,647	18,798,479
経常収支比率	94.4	93.3	95.7	95.1	94.3

☞20億円以上

☞200億円以下

☞96%台

（令和3年11月作成）

推計について

○歳入

市税：過去の決算や調定額等（納税義務者数）の推移により、税目ごとに推計
 地方交付税：一般財源総額が112億円（R2決算ベース）とし、公債費に対する措置分の増減を加味し推計
 地方債：投資的経費に対する財源として発行する地方債を見込み試算

○歳出

人件費：各年度の人員を見込み算定
 （退職手当は定年退職者に乗じて算定）
 扶助費：金額が大きいものを個別推計し、その他は過去3年平均（H30～R2年度）として推計
 公債費：既発債の償還額に、発行見込額の償還額を加算し積算